

ぬくもり

編集と発行 人権啓発ネットワーク大東
〒574-8555 大阪府大東市谷川1丁目1番1号
電話 072-870-0441 FAX072-872-2268

人権 平和 命 を感じ考えた 夜…

2022年12月2日(金)午後6時から、「人権週間記念のつどい」が大東市総合文化センター大ホールにて開催されました。

第一部 安田菜津紀講演会

「紛争地、被災地に生きる子どもたち ~取材から見てきたこと~」

安田菜津紀さんは、フォトジャーナリストというお仕事をされています。写真をとおして、様々な人の営みを伝えられます。16歳のとき「国境なき子どもたち」の「子ども記者」として、カンボジアの農村部におもむき、人身売買など厳しい境遇にある同世代の子どもたちと出会い、「どんな社会をめざし、次世代に渡していくのか」を考え、このお仕事を選ばれました。「出会いを超える人の変化はない。」との思いから、その場に行けない人にも「出会い」に近づいていただくために、写真を撮り、伝え続けておられます。そして、「人権は『他者への想像力』が大事」と語られました。

人権の反対語は、差別やハラスメント…。その全てを凝縮したものが、戦争・軍事侵攻です。安田さんは、2022年5、6月に、2度ウクライナ周辺に行かれました。そこで、戦争は、あらゆる命を踏みにじるものであるということ、あらためて確信しました。

カリナさんという女性は、突然の戦禍から脱出中、銃撃により鎖骨を砕かれました。夫は死亡し、集団で埋められ、のちに掘り起こして墓地に埋葬しなりました。ケガの後遺傷で抱けなくなった孫は、「平和な空がいい。」と言います。心に傷を負った子どもたちは、ドアの音に驚き、夜泣きをし、無気力や怒りっぽくなっています。

安田さんは、「国家が」とか「正義は」など、「大きな主語」ではなく、「一人ひとりの視点」か

ら、ものごとをとらえることが大切と語られます。

同じころ、中東のシリアにも2年ぶりに行かれました。国内避難民キャンプでは、子どもたちは教育の機会を逸し続けています。「なぜ私たちのことは、ウクライナほど世界の関心を集めないの？ 目の色？ 肌の色？ 宗教が違うから？」報道・情報の格差は、そのまま支援・命の格差につながります。だから、安田さんは写真で伝え続けます。



サラちゃんという 8 歳の女の子の笑顔が、会場スクリーンに映し出されました。彼女は母親と国外避難しています。ある日、兄二人と遊んでいたところに砲弾が落ちてきたのでした。長兄のムハンマドに直撃、次兄アフマドは片目を失明しました。サラちゃんは、右足を無くしました。サラちゃんは、「もうやめて欲しいと、大きい人たちに伝えて欲しい。」と言いました。

大きい人たちとは、戦争を始めた力のある人たち。そして、私たち全ての大人たちのことです。なぜ、この悲劇を防げなかったのか？ 大きい人たちの一人として、自分に一体何ができるのか？

シリアで内戦が始まった 2011 年 3 月、日本では東日本大震災がありました。安田さんの夫の父母が、陸前高田市に住んでいました。義父は、一命を取りとめるも、義母は、一月後に川を 9 km さかのぼった地点で遺体となって発見されました。

それ以来、安田さんは、仮設住宅に通い続けます。そこでシリアの話をする、「私たちにできることは」と、子どもたちのために服を段ボール 10 箱以上集めてくれました。「世界中から助けられて日常を取り戻したから『恩送り』」だそうです。

サラちゃんは、11 歳になりました。義足を隠すために、いつも長ズボンをはいています。夜中に起きて、「お母さん、私の足どこ？ いつ生えてくるの？」と泣きます。成長に合わせて、骨を切って義足を合わせるが続きます。サラちゃんには、戦争は続いているのです。シリアの人たちは言います。「自分たちを本当に追いつめてきたものは、世界の無関心。世界は自分たちのことを無視している。」

「他者への想像力」をはたらかせる。虐げられ、忘れ去られようとしている人々へ関心を向けるためには？ この夜、安田さんのお話を伺って、自分がどう思い何を感じたのか、一体何ができるのか…。周りの人に分かち合っていくことが、とても大切と考えました。

第二部 太鼓集団 魁 公演会

「人権・平和の大切さ、部落のすばらしさを伝えたい」

安田菜津紀さんに続いて、魁の公演がありました。和太鼓は大小さまざまで、大きな太鼓は腹に響く勇壮な音を轟かせ、附締太鼓は胴のまわりに巻いたヒモで皮を引っ張り、高く乾いた音がします。太鼓のほかに、当たり鉦や篠笛、琴も加わり、とても華やかなステージです。曲調も、ポップスやロックといった方がピッタリのような自由な表現もあり、タイトルも「ハートビート」や「カーニバル」など、カタカナの曲もあります。客席から自然に手拍子が沸きあがるほど、とても盛り上がりました。



週 3、4 回の練習を積み重ねていますが、この 3 年間は、コロナ禍のせいで集まったの練習には苦労しました。そんな中、この夜は 13 歳から 23 歳までの若いメンバー中心に、表情豊かに演奏していただきました。これまでも何度か魁の公演を聴かせていただいた私としては、新しい方がどんな登場をされるのか、また、「あの人」が次にどんな演奏に挑戦するのかも、楽しみの一つです。

「平和の世でない、祭りはできない。」まさしくその通りです。これからも、魁の更なるご活躍に期待しつつ、平和の尊さをかみしめた夜でした。

(レポーター:あき)

「平和なまち絵画コンテスト」受賞作品決定

平和なまち絵画コンテストとは、平和教育の更なる充実を目的として、平和首長会議が実施する絵画コンテストであり、昨年度は、18か国105都市から応募がありました。

本市におきましても、2022年8月に、市内の6歳から15歳の方を対象に絵画作品を広く募り、142作品の応募がありました。人権啓発ネットワーク大東の委員により選考を行い、最優秀作品には6歳～10歳の部で黒河香那さん（8歳）、11歳～15歳の部で吉村柑菜さん（12歳）が選ばれました。

また、それぞれの部から各4作品を入選として決定しました。

最優秀作品、入選作品に選出された方の作品については、平和首長会議に応募を行いました。

くろかわ かな
黒河香那さん



人と人が手をつなぎあって、みんながなかよしのまちがいっぱいになりますようにという思いで、かきました。



作品については、下記ホームページ（QRコード）よりご覧いただけます。



<https://www.city.daito.lg.jp/soshiki/19/31483.html>

よしむら かなな
吉村柑菜さん



今世界では、ロシア・ウクライナ問題のように戦争が起こっています。私はこの戦争に対して、早く2つの国が仲良く平和になってほしいです。この作品はたくさんの国の人達の「手」が地球をやさしく包みこんでいるハートの形をしています。

きっと世界中の人達は戦争のない平和で美しい地球を守りたいと願っています。私も未来の地球を守りたいと思い絵を書きました。

川なより松岡コンテスト表彰



「…仲間に出会えるのがうれしいんです…。」

北条中1年生が、2022年12月2日（金）に「守口市立さつき学園夜間中学校」に行ってきました

夜間中学校とは、

公立中学校に設置されている夜間学級のことです。山田洋次監督の映画「学校」の舞台にもなりました。現在の「6・3制」の義務教育が始まった1947年、貧困などで昼間は学校に通うのが難しい学齢期の子どもたちのために大阪市生野区で始まりました。最近、戦中戦後の混乱などで義務教育を受けられなかった高齢者が読み書きを学んだり、在日韓国・朝鮮人や外国人が日本語を学んだりしています。（朝日新聞2007年12月23日記事より）

北条中では数年前より、人権学習の一環として、この夜間中学を訪問してきました。目的は次の二つです。

1. 「学び」を奪われた人たちや、外国から日本に来て、生きるために「学び」を必要としている人たちが学ぶ場である夜間中学を知り、その背景を考える。
2. 夜間中学で学ぶ人たちとの出会いを通して、自分たちの学校生活を振り返り、改めて「学ぶ」ことの大切さや喜びを考える機会にする。

今年度の1年生は総数47名という少人数なので、全生徒（欠席者をのぞく）で訪問しました。到着後、さっそく第一部のスタートです。夜間中学の先生から説明がありました。NHKテレビの「か



食堂で説明を聞きます

んさい熱視線」にこの守口夜間中学が放映されたときの動画を見て、夜間中学の役割や現実に学ぶ人の思いを知りました。また、その場におられた外国から来られている生徒さんが「私は、子どものとき、国が大変乱れていて、家を出て学校に行く間に子どもが誘拐されることが多く起こりました。だから、学校に行きたくても行けませんでした。」とお話しされました。これを聞いた北中生はどんなことを感じたでしょうか。この第一部だけでも十分に学びがあったように思います。

続いて、「守口夜間中学あいうえお歌」の紹介をクイズ形式で教えていただきました。この日一つのハイライトシーンです。

- ① 学校で 明るくなった ○○○が増えた
- ② 気がつけば 生徒が○○○○になっている
- ③ 交流ですわった生徒 ○○と同じ年
- ④ ○○○○と相談しながら 自転車こぐ

夜間中学の生徒さんが考えたものです。○○に入る言葉がわかりますか。①は「仲間」です。②は「先生」です。最高年齢85歳の夜間中学では人生経験豊富な方が多くおられます。人生のこととなれば生徒が先生役になるということだそうです。③は「孫」です。それだけ年の差があるということですね。④は「血圧」です。高年齢だと気をつけないといけません。

次はいよいよ授業体験です。二つ目のハイライトシーンです。北条中の生徒が教え役になりました。写真を見れば分かるように身を乗り出して教えています。全員が一生懸命に教えていました。国語（漢字や表現方法）、数学（分数や江戸時代の和算について他）、外国の方への日本語（日本語の言い回し他）について、夜間中学の先生が指示することを北中生が教えていくのです。始めは不

安だった生徒も多かったですが、途中から慣れてくると積極的に説明し、赤ペンで採点していきま



身を乗り出して教える生徒

した。北中の先生たちは教室を何往復もしながら、満面の笑みで生徒を見守っていました。生徒たち、本当に素晴らしい。あとで、「教えてみてどうだった？」と聞くと、「生徒さんから積極的に聞いてくれるので、めっちゃ教えやすかった。」「ふだん、何となく使っている日本語だけど、『そういえば』の意味を何度も聞かれて、答えられなかった。自分が勉強になりました。」などと答えてくれました。なぜ、こんな素敵な感想が言えるのでしょうか。素晴らしい。夜間中学の生徒さんは分からないことは「分からないから、もう一度教えて。」とストレートに言われます。これがいいのですね。北中生もふだんの勉強で「分かりません。」と言うことがもっと自然に言えると確実に賢くなりますよ。

三つめのハイライトシーンを紹介します。体験授業を終えて、再び食堂へ。夜間中学の生徒さんと北中生が合計70名ほど集合しました。そこで、ホットケーキのようなパンと牛乳を頂きました。夜間中学の給食です。この場は北中生が司会進行。まずは、北条中の説明です。生徒が作成したパワーポイントを使って説明しました。続いて、質問コーナーです。北中生が質問していきました。紙面も限られているので、メモ風に紹介します。

質問1、「あなたが同年齢の人に夜間中学に通っていることを話すときどんな気持ちですか？」

回答「見栄を張って本当のことを言わない。」「恥ずかしい。」

「昼間の中学に行った人と同じようにもっと勉強したかった。」

質問2「夜間中学に通うようになって、生活に変化はありましたか。」

回答「よく出かけるようになりました。」「朝6時から勉強するようになりました。」

質問3「夜間中学に来て良かったと思うこと(魅力)は何ですか？」

回答「友だちがたくさんできたことです。」「ここに来ると気持ちがいやされます。」

起立したまま、しばらく黙ったままで、絞り出すように「…仲間と会えるのがうれしいんです…。」と一言おっしゃった男性がおられました。その言い方に、生まれた国での大変な状況、そして、何千キロも離れた日本に来ての苦労を一瞬で感じました。泣きました。当たり前前に学校に通えて、おいしい給食が食べられて、安心して勉強できる日本の状況がどれだけ幸せなことか。

質問4「夜間中学は今度どうなってほしいですか？」

回答「もっと増えて行ってほしい。」

「夜間中学が無くなると言葉を教えてもらえなくなり、日本語を覚えられなくなります。」

最後に、外国から来られた方が本当に厳しい中で生きてこられたこと、家が貧しくて弟と妹の世話で学校に行けなかった方の話、戦争で両親が亡くなったりして親せきの家を回らされた方の話を聞いたり、この日の北中生はどんなことを感じたのでしょうか。また、今後の人生にどれほど影響があるのでしょうか。注目して見ていきたいと思えます。

(レポーター：ガンちゃん)

人権の思いをつなげ、 2022 年を振り返る

4/15 (金)
大東市民会館

人権啓発ネットワーク大東総会后研修会
ヤングケアラー問題啓発 DVD
「夕焼け～ケアラーだれもが人権尊重される社会を～」

DVD を視聴し、地域社会やまわりの声かけや相談などのかかわりなど、ヤングケアラーの問題を自分ごととして考え思いを馳せる、大切な研修会でした。

5/1 (日)～4 (水)
野崎観音会館

第 39 回人権パネル展
「差別戒名から始まり 38 年 今、部落差別を考える」



人権啓発ネットワーク大東主催で、野崎観音慈眼寺内の野崎観音会館をお借りして「差別と人権」をテーマに毎年パネル展を開催しています。今年度は部落問題でした。墓石(レプリカ)の展示を中心に、差別戒名の問題や歴史、SNS を通じた差別行為、現代社会における部落差別の課題を見据えました。

5/6 (金)
サーティホール

憲法週間記念のつどい 木村響子講演会
ネットの誹謗中傷をなくしたい
～花が望んだやさしい世界を思いながら～

NPO 法人リメンバーハナ代表・元プロレスラーの木村響子さんの講演会でした。娘の木村花さん(プロレスラー)が、SNS 上の誹謗中傷を受けた後に急死され、以来インターネット上の誹謗中傷や人権侵害をなくすため取り組んでおられます。エピソードやフレーズをいっぱいいただきながら、会場との意見交流をメインに、一緒に作り共に学ぶ講演会でした。



8/27 (土)
キラリエホール

沖縄本土復帰50周年映画会
「ひまわり ～沖縄は忘れない あの日の空を～」

沖縄の、小学校への^{せんとうき}戦闘機墜落事件と52年後の大学へのヘリコプター墜落事件をとおして、今もある米軍基地と、生きていくために米軍基地で働いていることの^{かっとう}葛藤を描いた映画でした。「自分はどうしたいのか」、私たち一人ひとりの反戦平和の問題としてとらえ、考えることの大切さを実感しました。



日 々 雑 感

昔から感情表現をするのが苦手でした。^{きどあいらく うと}喜怒哀楽に疎いというわけでもない(自分では)思うのですが、それを表に出すことに^{ていこう}抵抗があるというか、何か^{えん}「演じている」(=ありのままではない)ような感じがしてしまうのです。

多分そうになっていったのは、^{おさな}幼い頃から親や先生の顔色をうかがって^ほ「褒められるように」ふるまってきた、いわゆる「ええ子」なふるまいをしてきたからです。その結果ぼくは、何かを^{はんしゃてき がまん}「感じて」も反射的に我慢してしまったり、「何を考えているのか分からない」と周囲に感じさせてしまうキャラクターになりました。^ふ振り返ってみれば、このちぐはぐさがぼく自身の「生きにくさ」だったし、最近になって「自分自身のことを大切にできているのだろうか」と感じるが増えました。今まではそれで困ることもなかったのですが、それはきっとぼくが「ぼくの世界」の中だけで生きてきたからなんだなあとようやく実感できるようになってきました。

ぼくが今この地域で、しかも福祉の世界(※介護・作業所・相談の事業所の役員)で生きているのは、そんなぼくの生きにくさに真正面から関わってくれたたくさんの^{おんじん}恩人がいるからです。「許容」しながら、少しずつ^{きよよう}と解きほぐしてくれたたくさんの恩人たち。ぼくが^あぼくらしく在る、というのはぼくだけでは成り立たないんだなあと、^{おく}遅ればせながら思い始めています。そしていつか、ぼくも誰かにとっての恩人の一人になれたらいいなと、そんなことを思う今日この頃です。

(ライター:卓ちゃん)

人権啓発ネットワーク大東とは

近年、子ども・障がい者・高齢者等への虐待や特定の民族に対する憎悪表現など多くの人権問題がニュース等で取り上げられています。社会環境が大きく変化し、まだまだ「人権」が尊重されていない状況が現在の日本には存在しています。

大東市では、人権尊重のまちづくりをめざし、市民による市民のための自主的な組織として「人権啓発ネットワーク大東」が 2013 年 4 月 1 日に設立しました。

目的

一人ひとりが生まれながらにもっている基本的人権が尊重される社会の実現に向けて歩み続けるため、自らの人権意識を高め、お互いの人権を認め合うとともに、わたしたち市民が行政と協力して、人権啓発活動を積極的に行い、人権尊重のまちづくりをめざす。

活動内容

- ・自らの人権意識を高めるための研修会などへの参加・参画。
- ・人権尊重の理念を広く市民に広げるための啓発・広報活動など。



☆入会案内

「このまちをよりよくしたい。そのために何かをしたい。でも何をしたいかわからない…」というあなた！お互いの人権を認め合い、地域の発展、人権尊重のまちづくり、そんな社会の実現に向けて、一緒に活動しませんか？

※詳しくは大東市ホームページ (<http://www.city.daito.lg.jp/>) に掲載していますのでご覧ください。

※「人権啓発ネットワーク大東」の Facebook も開設！

様々な活動の報告や、ほっとひと息いい話といった人権に関する小話など情報発信していますのでこちらもぜひご覧ください。

(<https://www.facebook.com/>

人権啓発ネットワーク大東-1987405014833313/)



入会等の申し込み・問い合わせ

人権啓発ネットワーク大東事務局（大東市人権室内）

〒574-8555

大東市谷川1丁目1番1号

T E L: 072-870-0441

F A X: 072-872-2268

Eメール: j_keihatsu@city.daito.lg.jp

